

特集 愛飲者インタビュー

多発性関節炎で歩行困難 毎晩の嘔吐が 動物用SOD様食品で激減

東京都にお住まいの石渡香代子さん(70歳)

日本SOD研究会報

発行元 日本SOD研究会 宮城
住所 〒158-0094
東京都世田谷区
玉川1-15-2 B棟2802
TEL. 03-5787-3498
協力 株式会社丹羽メディカル研究所
<http://www.niwa-medical.com>

カニンヘンダックスフンドのラブちゃんが石渡家にやってきたのは、2013年の春でした。カニンヘンダックスはミニチュアダックスよりもやや小柄ですが、小型犬の中では活発で好奇心旺盛な性格。明るく、友好的で、遊ぶことが大好きだといえます。

「そうなんです、活発で、愛くるしくて、賢くて、とにかく無条件にかわいい。親バカと言われてもいいんです。溺愛を通り越して激愛していましたから(笑)」

石渡家はご夫婦共に今年70歳、古希を迎えられます。26歳で職場結婚した同級生夫婦です。お嬢さん、息子さん、お一人のお子さんはとくに独立され、海外赴任の多かったご主人も定年退職され、夫婦ふたりだけの静かな生活のなかに飛び込んできたのが、元氣いっぱいラブちゃんでした。それは溺愛するのが当たり前。近くには大きな公園もあり、お散歩大好きなラブちゃんは大喜び。ご自身も毎日の散歩が運動になっていました。

6種類もの薬を無理矢理飲ませ嘔吐を繰り返す日々

ラブちゃんに異変が起こったのは、そんな平和な日々が8年続いたある日、ご夫婦で夜、外食して帰ったときでした。

「あれは8歳、もうすぐ9歳というときでした。いつもは帰宅すると転がるように玄関に跳んでくるラブが、一向に現れないんです。しばらくして、後ろ足を引きずりながら迎えに現れたものですから、どうしたの！と叫んでいました。とにかく、翌日、朝一番で病院に連れて行きました。ダックスは胴が長いから、腰を痛めたり、ヘルニアなどで足が動かないのかもしれないと思いましたが、そうしたら、血液検査でタンパクの量に異常があるとされました。炎症が起きているから自己免疫疾患かもしれないと。専門的なことは私にはさっぱり分からず、ただただ動転していましたが、幸い主人が冷静です

ごく几帳面で真面目な人ですから、いろいろ先生に質問をしています。私は、というラブを抱っこしてかわいそうに、大丈夫だからね、元気にしてあげるからね、などという根拠のない慰めしかできず、辛かったですね」

しかし、もっと辛かったのはそのあと始まった闘病生活でした。病名がはつきりしないので1日おきに検査や投薬で病院通い。

「ステロイドを始め、嘔吐がひどかったので吐き気を抑える薬など6種類くらい、毎日飲ませるので、やはり嫌がって飲まないんです。もう無理矢理喉に押し込んで、虐待かと思うくらいかわいそうでした。でも、私たちとしては、何が何でも生きて欲しいという一心でした。人間のエゴなのかもしれませんが、できることは何でもしてあげたかったです」

よかれと思ってやっていることが犬にとっては辛いことかも知れない。しゃべれないから余計に不憫に感じてしまったのでしょうか。

毎週のように病院通い、3週に一度の血液検査。闘病2年目に入ると、毎晩のように嘔吐を繰り返していたそうです。

「病名は、先天性免疫不全による多発性関節炎でした。(※注1参照)」

※詳しくは注1で説明していますが、多岐にわたる検査をいくつも行って、ようやく分かる難病のようです。

「前足の関節が曲がったまま動かなくなり、内側に膿が溜まり、夜になると嘔吐を繰り返す状態で、夜中は主人と交互に看病して、私たちも疲弊していましたね。このまま続いたら、どちらかが倒れるんじゃないかと思っていました。義足を作ってもらったり、関節をギブスで固定したり、いろんなことをやりました。それこそ足を引きずるから血だらけになる。そのための靴もあれこれ試行錯誤しながら何足も買いましたね。義足などは6万円もして、我が家ではラブの義足のことを冗談でルブタン(フランスの高級靴ブランドの名)と呼

んでいました」

今は元気でも、 10年後の自分のために 愛犬が教えてくれた SOD様食品

香代子さんの友人のひとりに、40年来の気の置けない人がいます。ご主人同士が同じ会社の同期で、同じ社宅の隣同士。年齢も同じだったこともあり、子供たちを預けたり、預かったり、まさに家族ぐるみのお付き合い。海外赴任中は、互いの赴任先に遊びに行ったり、



ギブスをつけたラブちゃん

来たりしていたとか。現在はそれぞれリタイアし、電車で数駅という近くに住み、互いにわんこを飼う生活を送っていました。

「その友人が、ラブのことを気にかけてくれて、ある日、こんなものがあるんだけど、試しに飲んでみる？と言って、動物用SODを10包くらいくれたんです。もともとは人間用があつて、それを改良して作られた、活性酸素を取り除いてくれる、有名な医学博士の方が作ったものだ。彼女も犬用、人間用両方愛用していると教えてくれたんです。あまり何かをセールスしたり、勧めたりするような人じゃないんです。でも、そんな人が勧めてくれるのだからと、試しに2包、フードに混ぜてあげたら、美味しそうに残さず食べてくれたんです。お薬とかは嫌がるのに。そうしたら、その夜、1年振りに嘔吐をしなかったんです。もう、びっくりしました。その後も、嘔吐の頻度は10日に一度くらいに減り、何よりもラブの瞳に生気がよ



ママに甘えているラブちゃん

みが出てきたんです。涙が出るくらい嬉しかったです」

ラブちゃんの劇的な変化を目の当たりにして、翌日には商品注文した香代子さん。

「はつきり言って、病院の吐き気止めのお薬は、全く効果がなかったのに、動物用SODはなにがどうしたらこんなに効くのか、主人がさっそくあれこれ調べていました。そして、これはすごいものだから、人間用を我々も飲んだほうがいいと言いだしたんです」

よく分からないまま、3日後

には香代子さんの元に人間用のSOD(以下、SOD)が届き、ご主人が食事の時に、これから毎日これを飲むようにと言って3包渡されたそうです。

「主人に、どういうものか私に分かるように説明してもらったの。そうしたら、人間も機械と一緒に古くなると血管や臓器などのあらゆるところが錆びてくるんだ。SODはその錆びを取ってくれるものだと思います、と言います」

しかし、石渡ご夫婦は、おふたりとも至って健康。持病もなく、

お薬のお世話にもなっていない。

「本当にこのような取材を受けることが申し訳ないんです。ラブが飲み始めてから私たちも欠かさず飲んでますから、もう2年くらい続いています、どこが効いているのかは

わからないんです。主人は頬のシミが薄くなったと言います。そんなどうでもいいことなんかね(笑)ただ、主人いわく、今は元気だからわからなくても、10年後にその答えがあるんだよ、10年後のために飲んでいるんだよって」

なるほど、含蓄のあるお言葉。素敵なご主人様です。

「結局、ラブは昨年(2023年)の11月26日に虹の橋を渡って逝きました。10歳と11ヶ月。よく頑張ってくれました。動物用SODに出会っていなかったら、もっと苦しんで亡くなっていたはず。最後はとても安らかに、一筋の涙を流して逝きました。主人と二人で、ラブのことでため息をつくのはやめようね、と決めたんです。今も携帯の待ち受けやアイコンはラブなんですけどね」

と言っで見せてくれた写真、使わせていただきたいとお願いすると、快諾してくださった香代子さん。思い出すと辛くなるのに、亡くなられてから取材を受けてくだ

さって、感謝です。そしてこんなおふたりと過ごせたラブちゃんは幸せでした。

「そういえば、通っていた動物病院の先生、なんと、SODのことをご存知だったんです。いいものだけど、何に効果的かの臨床データが少なく、どう使っているかわからなかったようです。しかし、ラブの状態を知って、すごく喜んでくれて、後日、主人が病院に行ったら、動物用SODが待合室に展示してあったといえます。あれ以来、先生も患者さんに勧めてくださいているようです。たくさんワンちゃんたちがこれで良くなるのなら、ラブも報われます」

※注1

先天性免疫不全による多発性関節炎とは

多発性関節炎は、免疫の異常により起こります。関節の痛みなどの症状だけではなく、繰り返し発熱が現れることが多いです。

多発性関節炎を引き起こすその

他の疾患を除外することで診断されます。

そのため、全身的に検査を行い、総合的に判断されます。

特発性免疫介在性多発性関節炎の検査は、以下のようなものがあります。

- ・触診
- ・血液検査
- ・X線検査
- ・関節穿刺(関節液を採取し検査する)
- ・顕微鏡での観察
- ・細菌培養・感受性検査
- ・抗核抗体(ANA)検査
- ・犬リウマチ因子測定 など

感染、薬剤や腫瘍の影響での免疫異常、他の関節疾患、神経疾患など、さまざまな可能性を調べる必要があるのです。他にも検査を行うこともあります。

原因は不明で、先天的に免疫異常が何らかの要因であったと思われるます。

(ペット保険FPC HPより)

SOD愛飲者 インタビュー

動物用SOD様食品で余命数日から生還 SOD様食品は我が家の生命維持装置 完治で2度目の登場

東京都にお住まいの宮下みどりさん(73歳)

宮下さんの愛犬、ハナちゃんの話をうかがったのは、ちょうど1年前のことでした。会報227号で紹介した、血液が作れない難病を克服したわんこのお話は記憶に新しいことと思います。

お子様が独立され、夫婦二人だけの生活を機に迎えたミックス犬のハナちゃんと妹のモモちゃん。その子たちを誰よりもかわいがっていたご主人が突然の逝去。それでも二匹のわんこたちに励まされてきた奥様のみどりさん。そんなみどりさんにさらなる試練が訪れました。それは予想もしていなかった愛犬ハナちゃんの発病でした。当時、まだ7歳。人間でいうと壮年期。飼い主の日常やことは

どんどん弱っていくようで、もう、家で安らかに逝かせてあげようと思いました」

も理解し、ママとの蜜月の年代です。そんなときに重度の貧血に見舞われ、ぐったりして食事もしなくなったハナちゃん。余命数日と告げられた病院の薬の量に不信感を抱き、セカンドオピニオンに踏み切ったこと。いい先生に巡り会い、生まれつき血液を作る骨髄の機能が弱いということが判明。しかし、効果的な治療法というよりは、呼吸がラクになるような薬の処方だったり、点滴だったりといった対処療法をしばらく続けていました。時は2年前の2022年の8月。猛暑の中の病院通いはハナちゃんの負担になると感じたみどりさんは、とつとつ決意しました。「諦めたんです。良くはならない、

そんなときに家に届いたのがこの会報でした。それもちょうど動物用SOD様食品(以下、動物用SOD)の記事だったのです。ダメ元で少しでもラクに安らかになれるならと動物用SODを取り寄せ、飲ませ始めたところ、翌日から変化があったといいます。寝たきりだったハナちゃんが、ゆっくり起き上がり、ご飯を自分で食べ始めたのです。そこからは日々、元気を取り戻していき、猛暑の過ぎた9月下旬、病院に連れて行ったら、先生が大変驚かれたそうです。血液検査の数値はほんの少ししか好転していないのに、目の前の生き生きとしたハナちゃんを見て「奇跡ですね」と言われたのです。そして「何かしました?」と聞かれたのですが、動物用SODのおかげだとは分かっても、おそらく先生には分かってももらえないだろうし、うまく説明できそつになかつ

たので、動物用SODのことは伏せたそうです。彼女は、決して完治したわけでは無いけれど、動物用SODがハナちゃんの骨髄の機能を補助してくれているのだと確信していました。

これを機に、ハナちゃんはもちろんのこと、妹のモモちゃんにも動物用SODを欠かしません。

「SODは我が家のわんこたちの生命維持装置のようなもの」

混合ワクチンも狂犬病予防接種もできるまでに回復

そんなみどりさんからは、2023年4月の取材後も定期的に連絡をいただいていた。

取材翌日のメールには、「今日、ハナを病院に連れて行きました。狂犬病と混合ワクチンを病気で打つことができないという証明書をいただきに行ったのです。そうしたら、また少し数値が良くなりました。先生から、もしかするとこのまま良くなるか

もしれないと言われました。昨年(2022年)の12月、2023年3月、4月の3回の検査で少しずつ良くなっています。間違いなくSOD効果ですね。感謝しています



ハナちゃん



妹のモモちゃん

す。また、気になっていたモリンガオイル、黒胡麻、ルイボステイも取り寄せました。やはり良いですね」

病気や老齢のワンちゃんは、狂犬病や混合ワクチンを接種することができない、そんな当たり前のことにも気づかされたメールでした。そして、ハナちゃんは動物用SODを1日2包も飲んでいました。動物用SODの目安は、健康なワンちゃんの場合、体重1キロにつき0.7グラムですから、4キロ弱のハナちゃんは、通常なら1包ですが、みどりさんは倍の2包を続けていました。その成果が、着々と現れているメールでした。

2度目のメールをいただいたのは、3ヶ月後(2023年)の7月。うだるような猛暑で、健康なワンちゃんですら調子を崩してしまいうようなところがある日。

「ハナ、その後です。6月に血液検査をしました。今までで最高に良い数値、先生にすごいことだと言われました。普通に散歩もオッ

ケー、なんと混合ワクチンも問題なく接種することができました。血球容積0.8だったのが、25.4に。正常値が60〜70くらいですから、0.8がいかに危険な状態だったか改めて認識しました。先生からも、実はあのとき、1〜2日の命だったと言われました。モモも体がしっかりして毛艶が良くなりました。動物用SODに出会えて本当に良かったです。これから夏本番。皆様も体調に気をつけてお過ごしください。ハナ、モモ、元気で一緒に過ごせて幸せです！」

こんなハッピーなメールをいただき、こちらまで暑さなんか忘れてしまいたいくらい嬉しくなってきたのを覚えています。

ハナちゃんが生まれつき持っていた骨髄で血液を作る機能が弱いという病気は、人間で言うところの特発性再生不良性貧血にあたるのかもしれない。自分のリンパ球(白血球の一種)が造血幹細胞を攻撃するという自己免疫機序によって発症すると思われる。

す。(厚生労働省がん情報サービスHPより)これぞ、活性酸素が自分の免疫機能を攻撃する自己免疫疾患に、活性酸素を除去する、丹羽先生が開発したSOD様食品(以下SOD)が効力を発揮したのでしよう。

ハナちゃんの快癒は決して奇跡ではなく、必然の結果だったと思われます。つまり、病院通いと快癒をあきらめたときに出会った動物用SODが、最適の選択だったといえます。おそらくハナちゃんの骨髄を壊していた活性酸素がSODにより少しずつ消去されていたのかもしれない。

そして3度目のお便りは、1ヶ月後(2023年)の8月。ちょうど取材させていただいた会報がお手元に届いた頃でした。

「今日、会報が届きました。読んでいて、自分のことなのに、幸せな気持ちになり、元気をもらえます。ありがとうございます。実は、自分自身のことですが、暑さのせいか、何かが足りないのか、疲れ

方がいつもと違う日々が続いていました。そのとき、ふと気づいたのです。目の前に元気なわんこたちがいるじゃないですか。コレだ！と思い、すぐに人間のSODを注文しました。実は、わんこにかまけて、私自身はSODをしばらく飲んでいなかったのです。翌日に届き、多めに飲んだほうがいいとハナが教えてくれましたから、1日3回、2包ずつ計6包を飲み始めました。そうしたら、違うんです身体が！SODに出会えて、本当に幸せです」

なんとということでしょう。みどりさん自身がSODを飲んでいなかったとは。あんなに動物用SODを絶賛してくださっていたし、何よりもわんこたちが見る見る元気になっていく姿を目の当たりにしていて、灯台下暗しとはこのこと。でも、早くに気づけて良かったです。ハナちゃん、モモちゃんに感謝ですね。

11月上旬。久々のメールはまたしても朗報でした。

「10月に動物病院に行きました。ハナ、数値がまた良くなっていて、もう健康なわんこと一緒です、と言われました。動物用SOD素晴らしいですね。モモも問題なしと言われ、楽しくお散歩しています」

会いに行くしかないと思いい立ち、あの取材からちょうど1年たったとある日、再度、お邪魔してきました。水と緑が素晴らしい、素敵なマンションも、みどりさんも、ハナちゃん、モモちゃんも変わらず迎えてくれました。

ハナちゃんが動物用SODを飲み始めて1年半。危篤状態から回復に向かう過程を逐一知ることができて、私たちも幸せをいただいています。

そして直近のメールが今年(2024年)4月6日に届きました。「ハナ、余命2日といわれたのが2年前の今日でした。先日、3月下旬に検査をしたら、数値がさらに良くなっていて、狂犬病のワクチンも普通に接種できました。感慨深いです。動物用SODに出会えて良かったです！」

真っ先に話してくれたのは、やはりハナちゃんのことでした。「メールでは書かなかったのですが、3月の検査で、すべての数値が基準値内に入っていました。先生にも、9歳ですべてが基準値内のわんこなんか、そんなにたくさんいませんよ。だれよりも健康なわんこです、と言われたのです」

すごいことです。あの生死の狭間にいたハナちゃんが、誰よりも健康で元気ですと太鼓判を押されたのですから。

動物用SOD摂取から2年。とうとうすべての数値が基準値内に。

「そろそろ、先生にSODのことをお話してみようかなと思っていらっしゃるんです。本当にいい先生なので、ちゃんとお話しすれば分かってくださるかなと」

これはもう、ハナちゃんたちに

きつとそのように熱心な先生で

すから、どうしてハナちゃんがこのままで回復したのか、知りたいと思います。ぜひ、お話ししてみてください。

「そうですね。ハナが正常値になったのを機に、お話してみます。だって、本当に動物用SODのおかげ以外なものでもないですから」

今、みどりさんは、動物用SODはもちろんのこと、SOD、黒胡麻、ルイボスティー、モリンガオイルを愛用されているとか。

「実は、この1月にコロナに感染したんです。喉が痛くなって、尋常じゃないくらいの高熱が出ました。もうろうとなりながら私、とにかくSODを食べなければと。この子たちがいるから、私が倒れるわけにはいかないと」

そうしてSODを枕元に箱ごと置き、食べ続けたそうです。

「そうしましたら、たったの数日で高熱が引いたんです。私、ワクチンは一度も打っていませんから、世の中の常識では重症化していたはずなんです。だって、高齢者

ですしね。でも、普通の人より軽く済んだのですから、SODはやっぱりすごいですね。ハナですごいことは分かっていたのに、今更ながら身をもって知ることができました」

そんなみどりさん、今も、介護施設で朝食のお手伝いの仕事を続けていました。7年前、ご主人が倒れ、病院通いのバス停で見つけた求人紙のお仕事です。朝7時から9時までの2時間ですが、そこには老後の現実世界の様々なことが凝縮されていました。勉強になります、とおっしゃっていたみどりさん。

「なんでも知らない気が済まないんでしょね。介護のことを知っておけば自分がお世話になるときの役に立つじゃない？ 知っているのと知らないのでは大違い。自分のことですものね。サプリだって、今、問題になっているじゃないですか。異物が混入だとか。本当にいいものを見分ける力、自分で調べて、勉強しないといけない

んです。おかげで私はSODに出会えた。それもこれも、ハナが教えてくれたんです。感謝してもしきれないですね」

聞けば、ハナちゃん、モモちゃん、トリミングはすべてみどりさんがされているとか。プロ仕様のバリカンやハサミを使い、月に一回、数時間かけてされているとか。爪切りも肛門線処理も、すべてされているとか。

「サロンにお任せすると、ハナやモモのストレスになると思うから」

頭が下がります。

お部屋にお邪魔すると、ハナちゃん、モモちゃんに猛烈に吠えられました。

あなた、誰？ うちのママに危害を加えたら私たちが許さないわよ！ といわんばかり。元氣な証拠です。ふたりとも1年前よりすっかりとした体になり、シニアと思えない毛艶と毛量。みどりさんのたっぷりの愛情のおかげでしょう。

また嬉しいメール、お待ちしております。お喜びです。

本紙の利用に関するお願い

日本SOD研究会報は、株式会社丹羽メディカル研究所のみ利用許諾をしております。当研究会の許可なく、文章、画像の一部および全てについて、販促物利用、転載、複製、複写、転用、編集、ブログへの引用などの二次利用を固く禁じます。丹羽メディカル研究所が許可した場合はこの限りではありません。

SOD様作用食品体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都世田谷区玉川1-15-2 B棟 2802

日本SOD研究会 宮城宛

Tel 03-5787-3498

までご一報下さい。

●SOD様作用食品とは●
丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力ぎを握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや生活習慣病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいために内服しても胃で破壊され、腸から吸収されません。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽朝負（耕三）医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に



二十年もの歳月が必要でした。「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精緻さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの、私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています。

先生は生前、土佐丹羽クリニックの院長として日々、医療の現場で、がん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたられていました。また、SODなどを始めとする論文は高い評価を得て、日本のみならず海外の学会で講演したり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送られました。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

SOD研究会からのお知らせ

いつもSOD研究会報をご覧いただきありがとうございます。

最近、特に当研究会へお問い合わせいただくことが多い内容についてお知らせ致します。「丹羽耕三博士のSOD様食品は金の笠のシールが貼られていれば、どこも同じものなのではないでしょうか？」というような、ご質問をよくいただきます。

その回答としましては、金の笠（管理番号付）シールは丹羽免疫研究所で分析・検定し、エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で開発当初から、厳しい品質管理のもとに伝統的な製法で造られる製品だけに貼付される信頼の証（マーク）でした。しかし、ここ数年前より丹羽先生の考えで別の工場で製造されたSOD様食品にも金の笠のシールが貼られ、販売されているものもあります。土佐清水市の工場で作られたか、そうでないかを見比べる一つの目安が、まず金の笠シールの特徴にあります。

エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で製造されている製品シールの特徴



原寸大 横 30mm、縦 25mm

- 管理番号は6桁
※土佐清水で製造された証明の通し番号となっています。
- シール左部分に絵や記号が記載されている
※左部分の表示は製品管理の為、不定期に変わります。
- 他の工場で作られた製品と比べ、原末の味や色、粒の大きさが違う場合などがある

◆現在、丹羽療法の診察は皮膚科のみとなります。ご希望の方はご予約いたします。（※自由診療）
※診療日等に関しましては、状況により変更、休診となることもあります。予めご了承ください。

丹羽メディカル研究所 ☎ 0120(731)175